

第5回学生向け福祉体感ツアー（in マルヒア）開催シーン まとめ

日 時： 平成30年9月21日（金） 午後7時～9時

場 所： 一社）WANA 関西 マルヒア（自立訓練）

参加者： 大阪医療技術学園専、大阪保健福祉専、大阪バイオメディカル専、（参加30名）

○ 基本講演 ⇒ 施設内見学 ⇒ 事業所スタッフによる「勤務感」のご披露 ⇒ 質問



- ・前回（第4回）に引き続き、夜間（午後7時から9時ごろまで）開催となりました。
- ・開講前の事業所玄関（入口）ですが、辺りはもう既に真っ暗です。
- ・マイドーム大阪の筋を西に1つ入ったところに事業所がありました。

<提供される日中プログラムなど：例>

※マルヒア HP より引用

- ・ 職業訓練・・・パソコン・ドリルなどの教材を活用した個別の職業訓練
 - ・ 作業訓練・・・事務作業の練習。ハンコ押し、ホッチキス止め、封入作業など
 - ・ ビジスマナー・・・職場の基礎から応用まで（新卒クラスあります）
 - ・ SST・・・グループによる社会的技能訓練で問題解決能力を高める
 - ・ LST・・・ライフスキルトレーニングは知的障がいのある方への基礎学習
 - ・ 当事者研究・・・1年間かけて自己理解・自己課題を深める社会研究
 - ・ 生活学習・・・日常生活を学ぶ。衣類や住居に関わることから食育まで
 - ・ 料理・・・旬の食材を使って、和食から世界の料理までを美味しく美しく創る
 - ・ エクササイズ・・・インストラクターが指導。各自ヨガマットでストレッチや呼吸法を
 - ・ クラフト・・・ぬり絵、きり絵、手芸に棚づくりなど、楽しくクリエイティブな時間
- *心理的支援は各自の必要に応じて提供されます
- ・ 自立訓練事業の中でも「生活訓練事業」を単独事業（移行やその他のサービスと多機能で提供していない）で行う事業所は、それほど多くはありません。
 - ・ 将来的な自立の展望を、「自分自身の考え方をもう少し整理」したり、「自信などを取り戻す試み」などを経験してから、就業等を行っていくための支援を展開しておられます。

○ 基本講義及びスタッフの皆さんのお話など



・真ん中で「配布資料等」のご説明をしている中澤さんとスタッフの皆さん



・ご用意いただいた「約30席」がほぼ満席です。



＜当日アンケートのまとめ＞

- 参加者から、①中澤さんのお話を聞いて（感想・意見）、②講義をお聞きする前と後では、来る前にしていたイメージに変化などはありましたか、の2点についてご提出をいただきました（以下）。

1 「中澤さんのお話を聞いて（感想・意見）」

- ・ 自立訓練事業制度というよりは、その前にあるべき意義について復習ができた。
- ・ 近年お聞きしたどのセミナーよりも、就業支援制度のお話が分かりやすかった。
- ・ とても魅力的なマルヒアのみなさんでした。
- ・ 授業を自分の学校でもやってほしい。
- ・ もっと具体的なお話が聞きたくなった。SEPの講義にも参加してみたい。
- ・ 学校の授業だけでは感じ取れない「現場の支援者」の支援感覚を勉強できた。

2 講義をお聞きする前と後では、そのイメージに変化はありましたか？

- ・ (現職者：講義をお聞きして) 実際に支援をさせていただいている方々のお顔が浮かんだ。彼らのほとんどが自分を卑下している。心理支援の大切さを痛感した。
- ・ 自立訓練事業の世間での認知度があまり高くないことを知った。
- ・ 自分で納得のいく就業（雇用）までの中間地点なのだと理解できた。
- ・ お聞きしたSEPプログラムなどが世間に広まるためには、まず私たちがこれを知らなければならぬと感じた。
- ・ (現職者：講義をお聞きして) 自立訓練はもっと暗いイメージでした。伺うと全く違っていました（明るく、キラキラしています）。自身転職活動中です。皆さんのように笑顔で仕事を語れるようになりたいです。
- ・ (女性学生) 福祉はジャージ×すっぴんのイメージが完全に変わりました。
- ・ 準備に徹して行われている感が伝わってきました。繋ぐという視点を強調されていたことも新鮮でした。
- ・ 職員の皆さんの「やりがい」が伝わってきて、こちらも楽しくなる時間でした。自立訓練については、自分はあまり理解できていませんが、ただ、こちらのスタッフの皆さんは「障がいの方への支援」が本当に好きなんだと分かった。
- ・ とても明るい内装に驚きましたが、施設の暗いイメージを払しょくしているという説明に納得しました。
- ・ 心理支援がとても重要だとおっしゃる考え方にとても共鳴しました。

- ・最後の頃におっしゃった「タコ糸が切れないように」はとても共感した。
- ・きれいにしていることも趣旨の一部であると聞き、大切なことを感じました。
- ・私にとって、福祉とは“人との繋がり”です。

3 ご質問など (回答は、別紙を参照ください)

Q 利用者の女性の方が多いのはどうしてでしょうか？また、利用者がお越しになる経路先にはどのようなところが多いのでしょうか？

Q 普通の（一般的な）認知行動療法と、SEPの違いは何でしょうか？自尊感情に焦点を当てているという点でしょうか？

(単なるポジティブ・トレーニングでは根本的な認知改善は難しいように思うのですが、長期的なカウンセリングか何かによって、徐々に改善を目指しているということでしょうか？)

Q 「来所等された方」を全て支援していくには、どのようなコツなどが必要でしょうか。

(編集後記)

夜間講義は本年度これで2回目の開催となった。夜間開催のメリットがあることも含め、そうなる事業所利用者はいないところでの講義形式になることも充分わかっていながら... 今回も学生の皆さんはやってくるのだろうか？と少々不安でもありました。結果、満席状態となっています。

そこに出向いて、そこの方の「講義」をできる限り真摯に聞く。これは「学びの基本姿勢」でもあると思っていますが、途中、休憩や施設内見学等があったにせよ、やはり事業所訪問で大切なのは、「そこで業務を行っている方」が大切にされていることを“真剣に聞く”ことなんだと痛感しました。どれだけの想いで日々の支援活動を行っているかは、やはりお伺いしてお聞きするというスタイル以上のものはないと改めて確信した次第です。

自分が自分らしくあるためには、一度、自分と向き合って整理を試みる、そこに介在する支援者は「当事者」を傍らで導く伴走者なんだと思い、その役割の大きさに出会えた今回でした。美しき女神スタッフの切れ目ないお話に大きな感銘と示唆をいただきました。ありがとうございました。

大阪市就ポツ 前野